



岐阜市政記者クラブ同時配布資料
岐阜県政記者クラブ加盟社 各位

令和5年11月17日（金） 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
文化財保護センター	調査第三係	長谷川・西松	電話 058-237-8550 FAX 058-237-8551

あくたみまちや 「芥見町屋遺跡現地見学会」を開催します

～令和5年度芥見町屋遺跡発掘調査成果の現地公開～

岐阜県文化財保護センターでは、遺跡や遺物の見学をとおした、埋蔵文化財に対する理解の深化と、文化財保護思想の普及を目的に、芥見町屋遺跡の現地見学会を開催し、発掘調査の成果を公開します。

1 日 時 令和5年11月25日（土） 13:30～15:30（雨天中止）
※中止の場合のみ当日8:30までに当センターホームページの
新着情報（<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/21807/>）で
お知らせします。

当センターホームページの二次元バーコード→



2 場 所 岐阜市祇園地内 芥見町屋遺跡発掘調査現場（会場案内地図参照）
※見学会の会場の駐車場に限りがあるため、できる限り公共交通機関を御
利用下さい（最寄りのバス停：岐阜バス「長山」、会場まで徒歩約20
分）。お車でご来場の方は、下記集合場所周辺（約50台）又は旧八幡
神社駐車場（会場から南へ350m、約70台）をご利用ください。

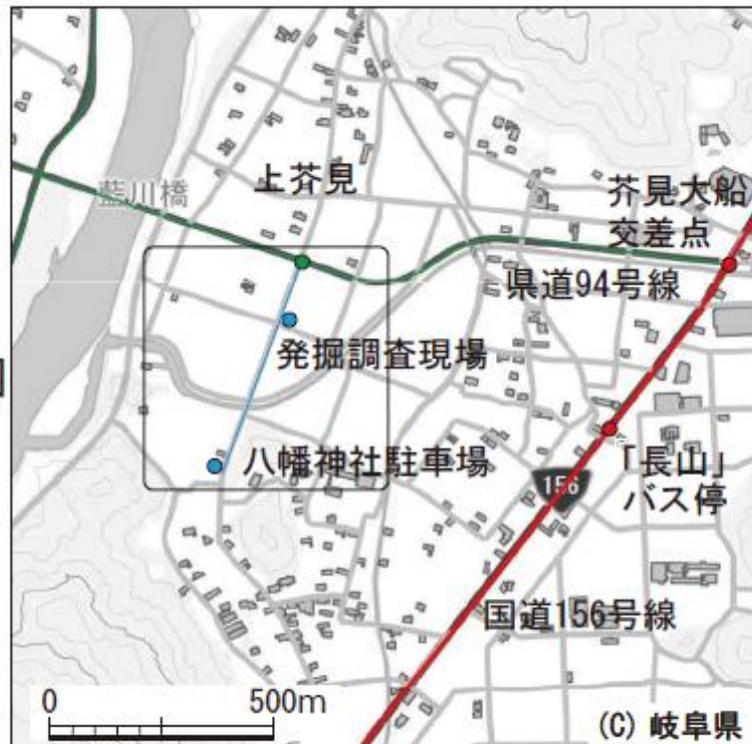
3 参 加 費 無料（事前申込み不要）

4 当日の連絡先 岐阜県文化財保護センター芥見町屋遺跡監督員事務所
TEL 058-201-1285（担当：西松）

当日は発掘調査した現場の一部を公開するとともに、発掘担当者による調査成果の概要説明を実施します。また、今回の調査で出土した遺物を厳選して公開致します。

5 会場（発掘調査現場）案内地図

会場周辺図



会場拡大図



【アクセス】 国道 156 号から 「芥見大船」 交差点を西へ、上芥見交差点を南へ
県道 94 号から 藍川橋を東へ、上芥見交差点を南へ

6 芥見町屋遺跡発掘調査成果の概要（10月末現在）

（1）遺跡の位置と地形

芥見町屋遺跡（岐阜市）は、長良川左岸の自然堤防上に立地する遺跡です。令和3年度から着手した国道156号岐阜東BP建設事業に伴う発掘調査によって、弥生時代後期から古代にかけて集落跡や近世の郡上街道跡などを確認したほか、弥生土器や須恵器など、約22万点の遺物が出土しました。

（2）今年度の発掘調査

所在地：岐阜市祇園地内

発掘調査面積：6,697.1㎡（累計10,373.9㎡）

現地調査期間：令和5年5月9日～1月上旬（予定）

調査原因（事業者）：国道156号岐阜東BP建設事業（国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所）

調査主体：岐阜県文化財保護センター

（3）今回の主な調査成果

①縄文時代の遺構を確認

これまでの調査によって、当遺跡では弥生時代後期から人々の活動が始まることわかっていましたが、今回の調査で縄文時代晩期の墓の一種である土器棺墓を確認したことから、当該地の利用が縄文時代まで遡ることが判明しました。

②累計111軒の竪穴建物を確認

今回の調査で41軒の竪穴建物を確認し、3年間の調査の累計で111軒となりました。当遺跡の竪穴建物は平面形が一辺4～5m程度の方形のものが多く、床面中央に炉跡がある弥生時代後期から古墳時代初め、壁際にカマドを備える飛鳥時代から平安時代の2時期に分けられます。両者はほぼ同じ場所で重なって見つっていますが、前者は古い河道や谷に挟まれた微高地に集中するのに対し、後者は後述する古代の大溝西側に散在して分布するという違いがあることが判明しました。

③古代の大溝を確認

発掘区を南北方向に貫く古代の大溝を確認しました。この溝は全長約100m、幅4～6mあり、底面付近から奈良時代を中心とした多量の須恵器が出土しました。須恵器には残存状態のよい円面硯や風字硯といった硯が含まれており、当遺跡の古代集落において、字を扱うことができる階層の人物が居住していたと考えられます。

④近世の郡上街道跡を確認

令和3年度の調査でみつかった近世の郡上街道跡と考えられる遺構の続きを確認しました。今回確認した遺構は、道路両脇の排水溝に区切られた幅約3mの範囲で、路盤と考えられる礫敷などを検出し、出土した遺物から幕末頃に再整備された段階の遺構であることがわかりました。県内では当時の街道の構造がわかる調査事例はほとんどなく、貴重な成果と言えます。

◎宇野 隆夫氏（帝塚山大学客員教授）による調査成果の評価に関するコメント

長良川の自然堤防上に立地する当遺跡の営みが縄文時代晩期にまで遡ることが確認された。この頃、集落が低地に広まる傾向があり、この地域の成り立ちを考える上で重要な成果といえる。当該地は中世の川湊や近世の街道が所在するなど古くから交通の要衝であったと考えられ、弥生時代から古代の集落の成立もこのことを背景としていた可能性がある。遺物では古代の硯が注目される。官衙的な建物は見つからないが、これまで確認された遺構や出土遺物から考えると一般の農民集落とは考えられない。郷長クラスの在地有力者が活動していたと考えたい。縄文時代から近世の各時代において特徴的な遺構・遺物が確認されており、今後の詳細な分析・検討が期待される。

(4) 調査成果写真



縄文時代の土器棺墓



弥生時代後期から古墳時代
初めの竪穴建物



近世の郡上街道跡